



TITLE:

[5]稀土類磁性体の価数揺動状態(第24回物性若手「夏の学校」開催後記)

AUTHOR(S):

糟谷, 忠雄; 馬場

CITATION:

糟谷, 忠雄 ...[et al]. [5]稀土類磁性体の価数揺動状態(第24回物性若手「夏の学校」開催後記). 物性研究 1979, 33(3): 133-133

ISSUE DATE:

1979-12-20

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/89888>

RIGHT:

その点はよかったが、その分本論にかける時間が短くなってしまったのは残念であった。又、質問があまり活発でなく、ほとんど先生の方からの一方通行となってしまった点進行係の不勉強にあります。この場を借りておわびいたします。

(文責 丹羽)

稀土類磁性体の価数揺動状態

講師 東北大学・理学部 糟谷 忠雄

8月31日～9月2日の午前中、合計10時間弱に亘って、講義して載いた。先生から、直接話を聞いた、という事は、若手の人達に少なからぬ刺激を与えた事と思う。

講義の主な内容は、次の通りである。

- 1) 稀土類原子の電子状態の解説、特に価数揺動の現れ易い元素と、その理由
- 2) 実験手段について
- 3) 基本的相互作用の大きさと4f状態について(種々の物理現象とその概念の説明)
- 4) 典型的な例としての、Ce, Sm, Tm化合物の価数揺動状態の実験結果のレビューと、その解釈及び問題点

(文責 馬場)

「コヒーレンス理論と量子光学」

講師 名大・教養 加野 泰

講義は3日間計9時間にわたって行なわれた。最初の2日間はテキストに沿って行なわれたので、その目次と概要を記す。